

令和4年度 府立宮津天橋高等学校宮津学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
我が国や地域の発展に貢献する「社会的使命感と青雲の志を持つ人」を育成する。	【成果】 ・ICT環境を充実させ、全教科で機器を有効活用した授業改善を推進することができ、生徒による授業評価も良好な結果であった。また、新学習指導要領への移行や観点別評価の導入についても組織的に準備を進めることができた。 ・各種教育課題に関する教職員研修を実施し、知見を深めることができた。 ・トイレ改修・特別教室等への空調機器新設など校内の教育環境の改善が進んだ。 ・宮津学舎と加悦谷学舎との連携は、修学旅行や合同部活動、遠隔教育システムを活用した授業などを通して進展した。 ・総合的な探究の時間では、外部機関との積極的な連携を生徒に促し、地域の諸団体との連携が一層進展した。また、各授業や行事においても探究的な要素を取り入れ、生徒のキャリア形成の中で、主体的に考え、取り組む姿勢を育成することができた。 ・部活動加入率は93%。体育系ではボート部の生徒が、文化系では書道部・美術部・写真部の生徒が全国大会へ出場・出展した。また、フィールド探究部は、日本自然保護大賞子ども・学生部門で大賞を受賞するなど、その活動が全国規模の大会等で評価された。 ・建築科では地域と連携した取組や外部講師による授業などを積極的に取り入れた。特に宮津高校最後の3年生は科として初めて全員が教育長表彰を受けるなど、大きな成果を上げた。また、トレース技能検定では団体として文部科学大臣賞を受賞した。 ・自己と他者の人権尊重について講演や特設HRなどで多面的に考えさせることができた。 ・定期的な面談の他にも個別面談の機会を多く設けるとともに生徒が相談しやすい雰囲気醸成することにより、さまざまな指導につなげることができた。 ・校内外の各種事業・行事については、国・府の新型コロナウイルス感染症に関する通知等に基づきながら実施の可否、実施方法等を検討し、全校体制で推進することができた。 ・PTA活動はこれまでの積極的な活動が評価され、文部科学大臣表彰を受けた。 【課題】 ・今年度入学生からの一人一台端末や観点別評価、ICT機器の有効活用、各授業における適切な目標設定などを通して、個別最適な学びの実現を図る。 ・両学舎生徒が互いに刺激しあいながら成長できるよう、様々な場面での加悦谷学舎との一層の連携を模索し、教職員・生徒の関係の深化を図る。 ・探究活動をはじめとした各種教育活動の中で、外部機関との連携の更なる拡充を図り、生徒の主体性をより一層育む。 ・部活動やボランティア活動は、コロナ禍により引き続き多くの制約がある中での取組となった。生徒の貴重な成長の場としてさまざまな対策を講じて活動を確保していかなければならない。 ・命と人権の尊重を常に教育活動の根幹に据え、きめ細かい生徒観察や声かけなどを行い、相談しやすい雰囲気を醸成する。 ・コロナ禍により、地域活動への参加、保護者の来校機会や部活動の観戦等が限られるものとなった。さまざまな手段を用いて、本校教育により関心を持っていただけるような積極的な情報発信を行う必要がある。	自立する個性を目指し、智力・人間性・体力が高度に調和した生徒を育成する。 1 教職員の資質向上と教育環境の整備を進め、教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。 2 宮津天橋高校完成年度（1～3年次生が在籍）にあたり、加悦谷学舎との連携をさらに深める。 3 探究活動を通して一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、希望進路の実現に結びつく確かな学力を養成する。 4 部活動や各種体験活動を通して能力と可能性を広げるとともに、自主自律の精神と社会的使命感を育む。 5 命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。 6 家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。 ○育てる人物像 ・自主自律の精神を持って学び続ける人 ・個性や能力を伸ばし夢に挑戦する人 ・人や社会とつながり未来を創造する人

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学校経営 組織運営	○教職員の資質向上と教育環境の整備を進め、教育課題に組織的に対応する体制を充実させる。 ○宮津天橋高校完成年度（1～3年次生が在籍）にあたり、加悦谷学舎との連携をさらに深める。	○1年次生のBYODや観点別評価、新学習指導要領への移行等について全校体制で取り組むとともに、各種研修を重ねて授業改善を推進する。 ○ICT機器等の施設設備の充実などをはじめ、生徒の学習環境、教職員の職場環境の更なる改善を図る。 ○学舎間の諸課題を整理し、その解決・改善に努めるとともに学舎合同事業についての検討を継続し、より一体感のある学校を構築する。	B	B	B	○観点別評価については前年度に準備したおかげで、順調に進められた。また、新学習指導要領への移行も同様に取り組めた。なお、1人1台端末の活用については夏季休業中にOneNoteの基本的な研修を行った上で、Teamsと併せて2学期から活用できているが、全教職員が基本レベルで活用できている訳ではない。 ○1年1人1台端末を活用しながらの業務改善については、1年生の授業アンケート結果から見て学力がついたと実感できる授業の在り方を引き続き創意工夫していく必要がある。 ○学舎合同事業については、連携しながら一つ一つ検討しつつ進め、次年度の改善点を抽出できた。また、教育目的、教育目標、育てる生徒像について学校として統一し、次年度からの教育活動に反映させる準備ができた。
学習指導 進路指導	○探究活動を通して一人ひとりの優れた能力・適性を伸張させ、希望進路の実現に結びつく確かな学力を養成する。	○探究的な各種取組の中で、生徒の主体的な学びに繋がる教職員の指導の在り方について研究を推進し、生徒の一層の成長に繋げる。 ○それぞれの生徒の主体的な進路選択に向け、学習状況の把握と組織的な支援体制をより高度に構築し、希望進路の実現を図る。	B	A	A	○探究活動については外部との連携が充実し、一定の形ができあがり、生徒の主体的な学びと素晴らしい最終報告会につなげることができた。生徒の満足度も高く、効果も見られた。今年度で5年目を迎え、地域に関するテーマも増えてきており、さらに外部との交流を充実させていきたい。既存の進め方についても新しい段階に進む上で検討が必要である。 ○学年部は、進路指導部と連携して進路行事や面談を行い、進路実現に向けた指導を行った。特に3年生の受験指導は教員全体体制で指導にあたり、それぞれの生徒の希望進路の実現を支援できた。国公立大学入試では推薦入試19名、前期入試29名、後期入試4名、延べ52名が合格した。5年ぶりの京都大学合格者が出た。また、医学部医学科合格者も出た。
生徒指導 特別活動	○部活動や各種体験活動を通して能力と可能性を広げるとともに、自主自律の精神と社会的使命感を育む。	○さまざまな生徒指導において、広い視野を持ち主体的に行動できる生徒の育成を常に意識する。 ○生徒の成長のために重要な役割を果たす部活動、ボランティア活動、各種学校行事などに対して、さまざまな対策を講じてできる限りの活動を確保する。	C	B	B	○特別指導件数はやや増加したが、規範意識等に課題を持つ一部の生徒に集中していることから、粘り強く指導を継続していく必要がある。 ○ボランティア活動に積極的に参加できているが、学校を挙げてのムードづくりや地域や家庭に知ってもらう情報発信が不足しているところがある。部活動は学舎制のスケールメリットを生かし、硬式野球部の選抜大会21世紀枠京都府推薦校や陸上競技部、ボート部、ヨット部、書道部、美術部、写真部の全国大会へ出場・出展、吹奏楽部京都府吹奏楽コンクール銀賞受賞など素晴らしい成績につながった。学校行事についても、工夫しながら実施し、学校評価アンケートで高い満足度を得た。

健康安全	○命と人権を尊重する態度を育てる教育活動を充実させるとともに新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安心・安全を保障する学校づくりを進める。	○時宜に応じた面談や声かけ、家庭や関係機関との緊密な連携を図りながら思春期の心の揺れを受けとめ、情報共有を図りながら生徒の成長を支援する。 ----- ○新型コロナウイルス感染症に係る最新情報を常に入手し、生徒や教職員が安心・安全かつ充実した生活を送ることができる方策を組織的に検討する。	C C	C	C	○進路変更、長期欠席・休学となる生徒が各学年に存在し、学年部、保健部、教務部、生徒指導部を中心に生徒の状況を見ながら、困り感の緩和・解消に向けて取り組んだ。時間が必要なケースもあるが、粘り強い支援を継続する。 ○1学期末にはクラスターに近い状況があった。冬季休業中にも家庭内感染から感染者が増加したが、校内でのクラスターはなかった。今後も緊張感をもって感染対策行うとともに、次年度以降の新たな対応についても準備する。
家庭・地域社会連携	○家庭・地域社会と一層の連携を図り、チームとして教育活動を充実させる。	○地域のさまざまな教育資源を積極的に活用するとともに、外部機関との更なる連携の拡充を図り、幅広い学力と郷土愛の醸成に努める。 ----- ○本校教育活動への理解を広げるため、各種情報を一層、積極的かつタイムリーに発信する方法を研究し、それを実現する体制を構築する。	A B	A	A	○普段の授業、特に探究活動や建築科実習では外部との連携が充実している。引き続き連携の中で生徒たちの達成感につなげ、自ら学ぶ力や郷土愛の醸成につなげたい。 ○広報は総務企画部を中心に合同説明会や中学校での学校説明会、広報誌、学校ホームページを充実させることができ、普通科では志願者の増加につながった。次年度も建築科の志願者を増やすための戦略を検討しなければならない。

学校関係者 評価委員会 による評価	○部活動、探究活動、地域をキーワードに学舎間連携や地域連携を図り、宮津天橋高校ならではの魅力づくりが進んでおり、特色ある分野は高い評価に値する。一方で、もう少しメリハリのある評価を行うことで、次年度に向けた課題が見えてくると思われる。学校評価アンケートの実施方法についても検討が必要である。 ○これまで学舎間で異なっていた教育目的、教育目標、育てる生徒像について統一したことで、「ひとつの学校」として一体感を感じられるものになった。教職員間で共通理解をし、次年度の教育活動につなげてもらいたい。特に「ひとつの学校」として共通の教育活動は今年度以上に推進しながらも、異なっている部分(各学舎の特色)はさらに特色を伸ばしていく手立てを考え、取り組んでもらいたい。					
-------------------------	---	--	--	--	--	--

次年度への 改善の方向 性	○整理された教育理念、教育目的、教育目標、育てる生徒像をもとに、「ひとつの学校」として共通、連携したりする教育活動の推進を図る。一方で、学習指導・進路指導、探究活動、地域連携等においては宮津学舎の特色をさらに際立たせるような取組を展開する。また、新型コロナウイルス感染症の対応が新たな段階になることから、新たな対応を工夫し、可能な限りコロナ禍前の教育活動に回復させる。 ○タブレット端末を活用した手法とこれまでの教育実践を上手く織り交ぜることによる授業改善と授業力の向上を図ることで、高い進路目標と希望を持って入学してくる生徒の希望進路の実現を援助する。 ○宮津学舎の特色である「Safari(総合的な探究の時間)」を充実させるために、より外部人材や地域人材との連携を深め、探究活動の内容の質の向上を図る。 ○両学舎合同というスケールメリットを活かした部活動(将来的な生徒数の減少を視野に入れた他校との連合チームの可能性も含む)の活性化を一層進める。 ○3年連続定員割れが続いていることから、宮津学舎の魅力を理解してもらおう戦略的な広報活動を行う。					
---------------------	---	--	--	--	--	--